

呼吸器内科後期研修カリキュラム

【一般目標】

患者様にとって満足できる呼吸器内科診療を提供するために、3年間のカリキュラムのもとに呼吸器内科診療に必要な知識、技術を習得するとともに、包括的で全人的な内科診療を実践できる人間性豊かな診療態度を身に付ける。

【行動目標】

1. 専門医として必要とされる診察法、検査法、診断能力を修得する。
2. 定められた呼吸器内科領域の検査及び手技に習熟する。
3. 定められた呼吸器内科領域の検査および手技の件数を経験する。
4. 全身管理能力を修得する。
5. 専門医としての指導能力を修得する。
6. 患者および患者家族との対応能力を修得する。
7. 医療システム（保険医療、介護保険など）を理解し、適応できる。
8. 内科認定医受験に必要とされる要件を満たし認定医を取得する。
9. 呼吸器専門医受験に必要とされる要件を満たす。

【方略】

1. 自己学習（学会、研究会、抄読会への参加、論文作成など）
2. 入院診療（主治医、コンサルテーション）
3. 外来診療（一般内科外来、専門外来）
4. 救急診療（昼間救急、外来当直など）

On the job training を基本とし、研修医、上級医、指導医からなるチーム医療を実践するなかでの問題解決能力の向上を図る。

研修は呼吸器内科を基本とするが、1年目は救急診療のローテーションを必須とする。また個人の希望により専攻科（呼吸器内科）以外の科のローテーションも可能である。3年間のプログラム中も呼吸器内科疾患の診療にとらわれることなく、一般内科医としての経験を積む。まずは1年目を終了した時点で認定内科医の取得を目指す。その後の認定内科専門医および呼吸器専門医の取得も可能なように準備を行う。3年以後の研修希望については終了時点での当該科研修責任者と相談する。

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金	土/日
午前	(外来) 病棟回診		(外来) 病棟回診		(外来) 病棟回診	(外来) 病棟回診
午後	気管支鏡 肺癌検診	(外来) 病棟回診	CTガイド下生検	気管支鏡	(外来) 病棟回診	
夕刻	(CPC)	検討会	(医局会)	内科会		

毎日 13 時より X 線・CT カンファレンス（健診センター）

不定期 尾北医師会との病診連携の会、呼吸器カンファレンス

【評価】

研修記録を作成する。

別表に従い指導医の評価および研修記録を提出し、各指導医の評価を受ける。

1. 基本的臨床能力：指導医が定期的に評価
2. 呼吸器疾患の基礎、症例へのアプローチ：指導医が定期的に評価
3. 研修記録提出
 - －症例へのアプローチ（症状から、検査異常から）
 - －呼吸器疾患の治療
 - －呼吸器疾患の臨床

【別に定める事項】

1. 日本呼吸器学会専門医： 1) 学会員 4年以上 2) 内科学会認定内科医取得後 3年以上の認定施設での研修（所定の研修カリキュラム参照）
2. 感染症専門医： 1) 基本領域学会専門医取得後 6年以上 2) 担当すべき症例数 50例（うち15例の病歴要約） 3) 論文数 1編 4) 学会発表数 2回
3. 日本アレルギー学会専門医： 1) 学会員 5年以上 2) 基盤学会専門医（内科 3年以上、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科 1年以上、その他 1年以上） 3) 臨床研修歴 6年以上（うち認定施設での研修 3年以上） 4) 担当すべき症例数 40例 5) アレルギー学業績 50単位以上（詳細は規定参照） 6) 日本アレルギー学会出席 3回以上
4. 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医： 1) 学会員 5年以上 2) 学術集会出席 2回以上/5年 3) 気管支鏡セミナー出席 1回以上/5年 4) 気管支鏡実績 100例以上（うち術者 20例）

【具体的達成目標】

1. 手技的事項

呼吸器内科後期研修医としては各手技、処置に共通することとして経験症例数自体は問題とはなるものではなく、必要な事柄をいつ、どのような症例にどのような処置、検査が必要かを見極めることである。そのため下記に記す症例数はあくまでの参考にさせていただき、より多くの症例を経験し各種手技を習得するように心がけること。

1) 専攻医1年次(卒後3年目)から3年次までの間に

- | | |
|----------------|--------|
| i. 胸腔ドレナージ術 | 30例以上 |
| ii. 気管支鏡下肺生検 | 100例以上 |
| iii. CTガイド下肺生検 | 30例以上 |

2. 学術的事項

呼吸器内科後期研修医は各種論文および学会に関してはアレルギー、腫瘍、感染症などの呼吸器内科分野にとらわれることなく、一般内科医としての研鑽を積むことが必要である。そのため呼吸器内科関連の学会に拘らず理学療法学、栄養学、緩和ケアなど各種学会に積極的に参加することが望ましく、下記の数値はあくまでも参考であり、達成数に甘んじることなく幅広い視野で学術活動を行うことを期待する。

1) 専攻医1年次

(発表) 地方会	2回以上
----------	------

2) 2年次

(発表) 総会	1回以上
---------	------

(論文) 和文	1編以上
---------	------

3) 3年次

(発表) 総会	1回以上
---------	------

(論文) 和文	1編以上
---------	------

英文	1編以上
----	------

【呼吸器科】

感染症、腫瘍(化学療法・放射線療法・手術適応)、アレルギー、膠原病、緩和治療等呼吸器疾患の基礎となる各分野をまんべんなく経験でき、有意義に呼吸器内科専門医研修ができます。

獲得可能な資格として、内科認定医・総合内科専門医・呼吸器専門医・アレルギー科専門医の他に希望があれば、臨床腫瘍専門医・ICD・HIV診療なども可能です。

後期研修終了後の進路は、名古屋大学医学部呼吸器大学院への進学以外に、希望で他の専門施設への赴任も可能です。